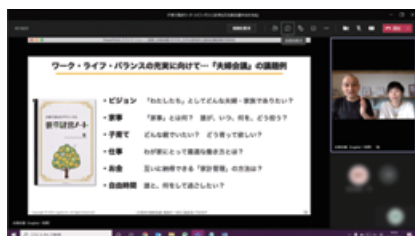


ダイバーシティ推進委員会企画記事 「子育てパパ会計士の日常」第11回 夫婦会議リターンズ

ダイバーシティ推進委員会 副委員長 竹中 陽介

皆様、本企画記事の第7回（2021年3月号）、第8回（同年5月号）に掲載させて頂いた「夫婦会議」について覚えていらっしゃいますでしょうか。同記事では、結婚・妊娠・産後・育児期における夫婦のパートナーシップを育むために効果的な「夫婦会議」について紹介させて頂きましたが、今回は「夫婦会議」を提唱されているLogista株式会社の共同代表である長廣夫妻を講師にお呼びし、ダイバーシティ推進委員会主催でセミナーを開催しましたのでご報告させていただきます。



「子育て期のワーク・ライフ・バランスを育む『夫婦会議』のすすめ」

開催日：2021年9月4日（土）

10:00～11:30

講師：長廣 百合子氏（Logista（株）共同代表CEO）、長廣 遥氏（同社共同代表COO）

本セミナーは、メインターゲットである結婚・妊娠・産後・育児期の夫婦の皆様はもちろん、幅広い世代の皆様楽しんで参加頂けるよう企画したものであり、実際に様々な年代の方にご参加頂くことができました。長廣夫婦がお住まいの福岡県よりWebを通して講義を頂きましたが、開催当時、妻の百合子様は第2子を妊娠中だったに

もかわらず、非常に熱意のこもったお話しを聞くことができました。

【第一部】講話

●Logistaの理念・未来像・使命

理念：より良い社会は、より良い家庭から。

より良い家庭は、より良い夫婦から。

未来像：未来を担う子どもたちのために、産後の危機を乗り越え、より良い家庭環境を創り出していける夫婦で溢れる社会を目指す。

使命：“夫婦会議（夫婦の対話）”を広め、子育て期夫婦のパートナーシップづくりを応援する。

●「ワーク・ライフ・バランス」とは、仕事と生活の調和

“Work or Life”ではなく、“Work & Life”という考え方。

特に育児期は「家庭と仕事の充実」に葛藤を抱える人が多い。

●「夫婦会議」とは

人生を共に創ると決めたパートナーと、より良い未来に向けて対話を重ね、行動を決める場。自分一人の意見を通すため・相手を変えるために行うものではなく、「わたしたち」で答えを創るためのもの。

●夫婦会議は「対話」が要

会話：たわいもないおしゃべり。気軽に交わすコミュニケーションの場。

議論：互いに意見を出し合うコミュニケーションの場。

対話：共通価値の創造。価値観の違いを尊重し、互いに納得のいく結論を導き出すコミュニケーションの場。

●妊娠～産後・育児期は、すれ違いが生じがち

産前：すれ違っていても修復するゆとりがある

妊娠～産後・育児期：あらゆる場面ですれ違いが生じがち

⇒結婚の際に「人生を共に創る」と誓い合う割に、妊娠～出産・育児期にかけて働き方や家事・育児の協力体制などの「大切な話」を疎かにする夫婦は多い。大切なことほど前向きに話せる関係性づくりを意識的に行うことが重要！

●妻が感じる「育児に非協力的な人間」の例

- ・日々の家事や育児に対する主体的な行動が見られない（家事・育児は「手伝い」程度の感覚で指示待ち姿勢、刻々と変化する子どものお世話内容を自ら調べない、等）
- ・不衛生な状態で、子どもや母

親モードの妻の身体に触れようとする

- ・産後の妻の「精神衛生の悪化」や「自信喪失」に繋がる不用意な発言をする

(「赤ちゃん泣いてるよ?」「泣かせっぱなしにするのは虐待じゃない?」「ママは怖いですね~」「散らかってても気にならないよ(妻の危機意識を軽視)」等)

●子どもたちが最初に触れる社会 = 家庭

夫婦が築く家庭環境が子どもたちの未来に与える影響は計り知れない。また、子育てに対する職場や地域の在り方は、各家庭に大きな影響を与える。

子どもたちの未来のために、身近な夫婦に「夫婦会議」を届けたい。

ここまでの話を聞いて、私が一番ドキッとしたのが、「妻を感じる『育児に非協力的な人間』」のところ。具体例を聞いて、自分にも心当たりが多く胸にグサッと刺さりました。でもこれはきっと、私だけでなく、初心者パパには同じことが当てはまるのではないのでしょうか。

ちなみにこの話を帰って妻にしたところ、「長男が生まれてすぐは本当にしんどかった」と当時の心境を吐露され、「聞かなければよかった」とすぐに後悔しました(汗)。

【第二部】質疑応答

- Q. (男性) 子どもが生まれてから妻と二人でゆっくり話す機会がなくなった。妻と会話を

したい気持ちはあるが、今さら話しかけるきっかけがなく難しい。

- A. まず妻と二人の時間、空間を作ることが大事。子どもが寝た後や週末1時間だけ喫茶店に出かけるなど、やる気があれば時間は作れる。話すきっかけがなければ、挨拶などたわいもない会話から。それから議論⇒対話と話す内容を深めていく。相手に「二人で話をしたい」ことをしっかり伝えておくことが重要。

- Q. (女性) 夫は仕事が忙しく、家事・育児にほとんど参加してくれません。自分一人で家事・育児をやっているとどうしてもストレスが溜まり、子どもに八つ当たりしてしまうことも。どうすればよいでしょうか。

- A. 今の気持ちを整理して夫に伝えるべき。その際、いきなり不平不満をぶつけるのではなく、あくまで今の状態を共有するよう努める。冷静に話をする自信がなければ、まずは言いたいこと、思っていることをノートに書き出し、その中から本当に伝えたいことをチョイスする。後はパートナーの聞く姿勢次第。忙しいときや疲れているときに話をしてもうまく

伝わらないため、10分でもまとまった時間を確保し、携帯も消してもらおう。落ち着いて話をする場作りが大事。

他にもいくつか質疑応答がありましたが、講師の回答に共通していたのは、「夫婦できちんとした対話をするためには、まず場作りから」という点でした。そのためには、「時間の確保」や「自分の気持ち・話したい事柄の整理」が重要ということで、確かに日常会話でも、何かしながらだったり何かに気を取られていたりすると、頭に入ってきませんよね。また、内容はともかく、夫婦で向き合い対話をする姿勢や相手を思いやる気持ちが大事なのだと、改めて考えさせられました。

長廣ご夫妻は現在、合計4か月間の夫婦同時での産休・育休を取得されています。これを聞いてどう思われるかは皆様それぞれだと思いますが、私個人としては、お二人はこれからの夫婦像のモデルケースだと感じており、このような事例が日本でもっと増えればいいなと思います。

(参考サイト)

・Logista株式会社HP
<https://www.logista.jp/>



記事をお読みいただきましたご感想や企画記事のご提案等、何でも結構ですので、コメントをお待ちしております。

コメントはこちらから ▶▶▶▶▶

